

第168回 教育研究評議会要録

日時 平成31年1月24日(木) 13時00分～16時00分
場所 第一会議室
出席者 今岡学長, 藤原理事, 小路田理事, 小川理事, 井深理事, 成瀬副学長, 三成副学長,
吉村副学長, 野村文学部長, 林井理学部長, 黒子生活環境学部長, 高田人間文化研究科長,
中山, 石崎, 春本, 上江洸, 久保, 松岡, 棚瀬, 三木各評議員
列席者 才脇学長補佐, 酒居監事, 福田監事, 岩阪事務局次長/総務・企画課長, 太田情報管理活用監,
桑原国際課長, 川村研究協力課長, 西田財務課長, 清水施設企画課長, 鱸学務課長,
中窪学生生活課課長, 矢野学術情報課長

議事に先立ち, 前回の記録確認。

I 審議事項

1. 工学系学部の設置について

学長から, 資料1により工学部設置に関する検討状況と方向性について説明があり, 意見を聞きたいとの発言があった。

棚瀬評議員から, 構想されている工学の内容が, 本格的なものでも先進的なものでもなく, 情報衣環境学科をベースとした生活環境学の色合いが強いものになっている。新規スタッフの専門分野や奈良教育大学の教員内容や教育内容についても示されておらず, 現時点では, 工学部のイメージが具体的に見えない。法人統合の議論とは切り離し, 当初予定より1年前倒しの平成33年度設置については疑問を感じる。法人統合した後に, ハード面も含めて慎重に検討したほうがよいとの発言があった。また受験生への公表については, 設置審査が通らないリスクも考慮し, 本省と相談しながら慎重に行う必要があるとの意見があった。

高田人間文化研究科長から, 平成33年度設置は反対, 法人統合と並行しての作業は非常に負荷がかかる。工学部設置よりも法人統合の方が優先度は高いと思う。工学部設置により本学抱えている課題(経営面)がどのように解決されるのかも示したうえで採決をとっていただきたいとの意見があった。

三木評議員から, 生活工学共同専攻が定員確保で苦勞している現状を鑑みると, 工学部の志願者確保に危惧を感じる。志願者確保の面で軌道に乗ってきた生活情報通信科学コースを廃止することは大学にとってマイナスではないか, 工学部と生活環境学部が共倒れになるリスクもあるとの意見があった。また, 抛出元ポストへの教員補充については, 教員免許維持のことがあるので年齢条件を緩和いただきたいとの意見があった。

野村文学部長から, 可否を判断するには示されている情報が少ない。他律的な要素によって1年前倒しで進めるのはリスクがあるとの意見があった。また, 7月の説明会から状況が変わっているので, 全学説明会を行ってほしいとの意見があった。

三成副学長から, 工学部設置には, 受験生確保の見通し, 奈良教育大学との協力関係, 本学生活環境学部の性格変化などについて多くの懸念があり, 十分な説明がされていないうえ, 設置が1年前倒しになるとこれらの懸念が一層拡大する。よって, 平成33年度にお茶の水女子大学と同じタイミングで設置することを目指すのは拙速である。また, 1年前倒しについては手続き的にも問題が多く, 生活環境学部が学科減になることのデメリットについて全く議論がされておらず, 学部での合意形成もされていない。教員の所属を工学部に移すだけでは外部資金が増えるとは思えないとの意見があった。

石崎評議員から, 設置の採決は, 平成33年度工学部設置という大括りではなく, 争点毎(工学部の設置, 設置年度, 設置形態)に行ってほしいとの意見があった。

林井理学部長から, 受験生を確保するには大学院進学を保証する体制づくりが必要不可欠である。理学部から異動する教員は, 異分野の教員と同じ組織に所属することになるので, 該当教員に対して工学部での教育研究のイメージを具体的に説明いただきたいとの意見があった。

上江洲評議員から、前回の会議では、入試について、奈良教育大学と本学で別々に選考を行うということだったが、1学部なのでどのように選考するのか、受験生へ説明会までに、改組の骨子が固まっているのか、受験生の関心事項である教員免許取得について、どのような免許を取得できるのかとの質問があった。

以上の意見に対して、学長から、設置時期について、二番手になることのデメリット、経団連のメッセージへの対応や女子の工学研究者に対する社会的ニーズ、厳しい予算状況を考慮すると、可能な限り早期に工学部を設置することが大学の戦略として望ましい、入口戦略や出口戦略を意識しながら検討をしているとの説明があった。また、小路田理事から、工学部設置に関係する既存の学部・学科についても関係教員と協議をしながら検討を進める、受験生への広報が秋になるようなことになれば前倒してやらないとの説明があった。

以上、慎重論や反対論も含め、意見交換した内容について、役員会へ報告することとした。また、次回以降の本会議で、具体的な教員組織（専門分野）や教育内容（教養教育も含めた）をワンパッケージで示したうえで、設置の可否について採決することとした。

2. 学内諸規程等の制定について

(1) 国立大学法人奈良女子大学の内部質保証に関する基本方針の制定について

小路田理事から、資料2により説明があり、審議の結果、原案のとおり承認し、役員会へ付議することとした。

3. その他

特になし

II 報告事項

1. 第235回役員会について

学長から、第235回役員会の審議概要について、資料3により報告があった。

2. 「国立大学の一法人複数大学制度等について（案）」に関する意見募集の実施及び奈良教育大学との連携協議について

学長から、資料4により、国立大学の一法人化複数大学制度等に関する調査検討会議中間まとめ（素案）の概要について情報提供があった。

3. 認証評価受審にあたって必要となる対応について

小路田理事から、資料5により、平成32年度に認証評価を受審するにあたって対応が必要となる事項及びスケジュール、作業は各部局の自己点検評価をもとに進め、データの追加や新たに対応が必要となる部分を段階的に各部局へ依頼することについて説明があった。

4. 平成31年度学内予算編成方針について

学長から、資料6により説明があった。

5. 2019年度国立大学関係予算（案）について

財務課長から、資料7により、2019年度国立大学関係予算（案）の概要及び、2019年度以降の評価に基づく資源配分の方向性について説明があった。学長から、本学は評価配分の指標となる若手研究者比率が低く、危機感を持っているとの発言があった。

6. 平成31(2019)年度学年暦について

学務課長から、資料8により、次年度の祝日が確定したことに伴い、学年暦が確定したとの報告があった。

7. 「奈良女子大学へのトランスジェンダー学生受け入れについて」学生対象の説明および意見交換会の報告について
学長及び小川理事から、資料9-1から資料9-4により報告があった。
8. ワークショップ「博士のキャリアデザイン」の開催について
小路田副学長から、資料10により、開催案内があり、部局内での周知依頼があった。
9. 国立大学協会通常総会について
学長から、資料11により、1月23日に開催された国立大学協会通常総会において議事概要について説明があり、同会議において承認された入学者選抜に係る試験問題及び解答例等の公表の取扱いに関する方針への対応について小川理事及び各部局で検討するよう指示があった。
10. 各室等からの報告について
障害学生支援室
三成副学長から、資料により、トランスジェンダーをテーマとした教職員研修講演会の開催案内があり、多くの教職員が参加いただけるよう部局内での周知依頼があった。
11. その他
特になし

以上